ニュージーランド
留学の魅力

留学先の国別ランキングでは、常に上位に位置するニュージーランド。その人気の理由を、エデュケーション・ニュージーランド 教育担当官のフィオナ・ハイコさんに聞いた。

NORTH ISLAND
北島

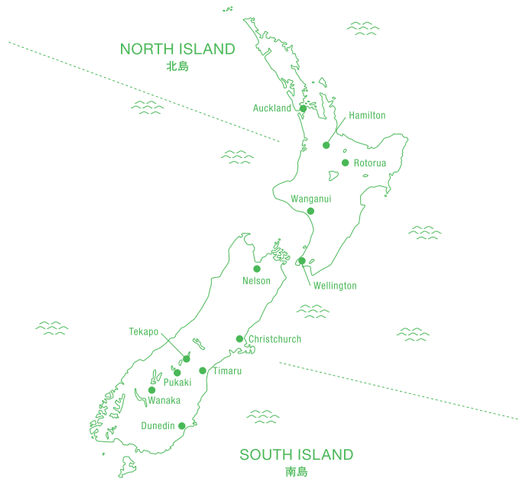
ニュージーランドの人口460万人のうち4分の3が集中する北島。都市部には、ヨーロッパ系、マオリ、太平洋諸島の人々、アジア系住民などが多文化を形成しています。活気のある街並み、美しい海岸線、広大な牧草地、地熱地帯など、地域ごとに特色のある風景が広がっています。

人気の留学先

オークランド：ニュージーランドの玄関口。温暖な気候で人口140万人を超える国内最大の都市。白いビーチと緑の木々が美しく、「帆の街」と呼ばれる。

ロトルア：温泉リゾート地として国際的に有名で、間欠泉や泡立つ泥沼などが見られる。マオリ文化の中心地でもあり、その生活や文化に触れることができる。

ウェリントン：ニュージーランドの首都。政治都市ながら、舞踊や演劇、オペラ、音楽など文化活動も盛ん。飲食店の過密度が国内一という側面も。



New Zealand

SOUTH ISLAND
南島

荒々しい海岸線、海岸まで迫る氷河、雄大なフィヨルド、広大な平野など日本では見られないダイナミックな景観が広がります。南島を南北に走るサザンアルプスには最高峰のマウント・クックをはじめ、3000メートル級の山も多数あり、世界中のスキーヤーを魅了しています。

人気の留学先

ダニーデン：スコットランド系の移民によってつくられた町。ダニーデンは「エジンバラ」を意味するゲール古語。歴史的建造物が残り、独特の雰囲気がある。

クライストチャーチ：「ガーデンシティ」と呼ばれる、南島最大の都市。田園地帯の中心地でもあり、ゆとりある生活環境が魅力。緑が多く、美しい植物園もある。

ネルソン：地中海性気候で一年中陽光がふりそそぐ。市内にはアーティストのギャラリーやアトリエが多い。山と海に囲まれ、近郊には3つの国立公園がある。

エデュケーション・ニュージーランド
教育担当官
フィオナ・ハイコ さん
EDUCATION NEW ZEALAND JAPAN
SENIOR MARKET DEVELOPMENT MANAGER
Fiona Haiko

ニュージーランドは、もともとイギリスからの移民と先住民であるマオリによって発展してきた国であり、移民に対しては寛大な国です。

留学生の受け入れにも積極的。2025年までに留学生を倍にしようと国も力を入れています。ただ受け入れるだけでなく、留学生たちが安心して勉学に励めるように、国が教育のレベルやホームステイなど滞在先の質を保証していることがニュージーランドの最大の特徴です。

留学は5歳から可能。小中高校は（P54参照）、もちろん、語学学校（P54参照）、ポリテクニック・工科大学・PTE（P60参照）、大学・大学院（P44参照）の各校種で積極的に留学生を受け入れています。ワーキングホリデー（P66参照）や、シニア留学、親子留学、スポーツ留学も注目されています。

治安のよさ、環境のよさから、修学旅行やサマースクールなどのショートステイ先としても人気です。ニュージーランドならではのファームステイもおすすめです。

ニュージーランド留学を
オススメする8つの理由

1
治安・環境のよさ

英国の経済紙「エコノミスト」が毎年発表している、世界平和度指数（Global Peace Index）2015によると、ニュージーランドはアイスランド、デンマーク、オーストリアに次いで第4位。OECDの「より良い暮らし指標」でも、上位に位置する。治安がよく安全な国であることから、小中学生など低学年や、初めて留学で訪れる生徒・学生にとくに人気が高い。学校やクラス単位の修学・教育旅行でニュージーランドを訪れる日本人も多く、その数は毎年1万人を超える。

2
教育の質の高さ

ニュージーランドの教育水準は世界的にも高く、OECDが3年ごとに行っている生徒の学習到達度調査（PISA）では、ニュージーランドの学校システムが常に高く評価されている。また、「2014-2015 QS世界大学ランキング（科目別）」では、国内の国立8大学中6大学が上位50位以内に入っている。
特筆すべきは、高い教育の質を維持するために、国が調査機関を設けていることだ。幼児教育施設、小中学校、高等学校であれば、ERO（Education Review Office）、高校以降の教育機関や大学ではNZQA（New Zealand Qualifications Authority＝ニュージーランド資格庁）、大学ではUNZ（Universities New Zealand）が、品質管理・保証を行っている。これらに認定・登録されている教育機関であれば、どこの学校に行っても教育の質が保証されているので安心だ。

3
留学生の生活保障の手厚さ

ニュージーランドは、学生のサポートや滞在先の手配、情報の提供などに関して、国が「留学生の生活保障に関する服務規程（Code of Practice for the Pastoral Care of International Students）」を設けている。留学生を受け入れる教育機関は服務規程をクリアして、認定・登録されていなければならない。

4
フレンドリーな国民性

ニュージーランドは、先住民のマオリ、ヨーロッパ系、ミクロネシア系、アジア系など多種多様な民族が暮らす人種のるつぼ。昔から移民を多く受け入れてきた歴史があり異文化に寛容だ。もともとのマオリの文化も、新しい移民の文化も尊重し合いながら発展している。
人種差別もほとんどなく人々はみな気さくで、リラックスしていることも留学生たちから愛される理由だ。とくに日本人とは古くからつながりがあり、親日家も多い。

5
豊かな自然

日本の4分の3ほどの国土の中に、氷河、フィヨルド、山脈、火山台地、亜熱帯の原生林など、変化に富んだ大自然が広がるニュージーランド。手つかずの自然を守るため、国土の約3割が、国立公園や自然保護区などに指定されている。また、ニュージーランドの国鳥でもある飛べない鳥「キウィ」、恐竜の生き残りと言われるトカゲ「トゥアタラ」など、ニュージーランドで独自の進化を遂げた、他の地域では見られない野生動物たちに出会えることも、魅力のひとつだ。

6
英語以外の魅力もいっぱい

アウトドアスポーツが盛んなニュージーランドでは、スノーボードやラフティングなど、さまざまなアクティビティが体験できる。ラグビーは最も人気のあるスポーツで、迫力のあるプレイが観戦できるのも魅力。トンガリロ国立公園など3カ所が世界自然遺産に登録され、美しい自然の中をトレッキングするのもおすすめ。野生動物と出合うエコツアーや、ロード・オブ・ザ・リングのロケ地を訪ねるツアーなど、勉強以外の楽しみにはことかかない。

7
3カ月までなら学生ビザが不要

短期間の留学でもビザが必要な国があるが、ニュージーランドでは日本人は、3カ月以内の滞在ならビザなしで入国できる。パスポートの残存有効期間が3カ月プラス滞在日数以上あることと、帰国便の航空券（またはニュージーランド以外の渡航先への航空券）を持っていることが条件。

8
留学中の就労も可能！

学生ビザを持っている学生は、学期中は週最大20時間までのアルバイト、休暇中はフルタイムの就労が可能な場合もある。就労体験は、実践的な英語力を身に付けるためにも大いに役立つだろう。また、ニュージーランドで一定のコースを修了した学生は、以下の2つのビザの申請が可能。最大4年間ニュージーランドで働くことができる。
①Post Study Work Visa（Open）
雇用主の「ジョブオファー」なしで1年間働けるワークビザ
②Post Study Work Visa（Employer assisted）
雇用主からの「ジョブオファー」があり、その職種が学校で学んだコースと関係性があれば、2年間、または3年間働けるワークビザ

ニュージーランドの教育制度

ニュージーランドでは新学期は1月下旬～2月に始まり12月中旬に終了。国が学校の教育の質のレベルを厳しく管理していることが特徴。

中等教育

プライマリー・スクール

ニュージーランドでは「学年」のことをYearと呼び、6～16歳（Year1～11）までが義務教育。しかし、5歳からプライマリー・スクール（日本の小学校にあたる）に入学するのが一般的。プライマリー・スクールはYear8まで一貫教育だが、Year6修了後、インターメディエイト・スクール（Year7、8）に進学する場合もある。

セカンダリー・スクール

Year8を終了するとセカンダリー・スクール（学校によって、ハイスクール、グラマースクール、カレッジと呼ぶ場合もある）に進学する。Year9、10では基礎となる必須科目を学び、Year11からは必須科目プラス、将来の進路に合わせて科目を選択する。

Year11～13の生徒はNCEA（全国共通学力試験）を受験。この結果はその後の進路や進学に大きく影響する。

Year11で、NCEAレベル1をクリアすると、Year12に進級するか、ポリテクニックや工科大学（P60参照）のサーティフィケート課程に進学できる。

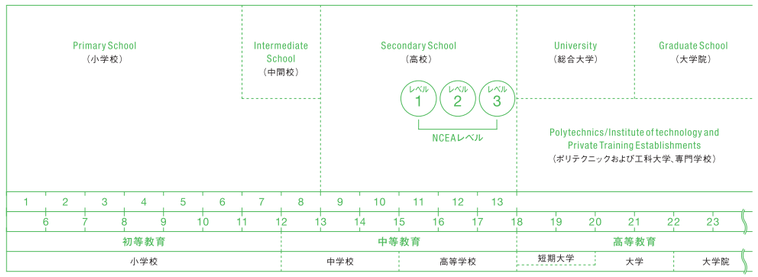
Year12で、NCEAレベル2をクリアすると、Year13に進級するか、ポリテクニックや工科大学の準学士課程（Diploma）に進学できる。

Year13で、NCEAレベル3をクリアすると大学課程や、ポリテクニックや工科大学の学士課程（Bachelor's Degree）に進学できる。また、さまざまな国で大学入学資格として認められているIB（International Baccalaureate：国際バカロレア）が取得できる学校も増えている。

ニュージーランドの学期制

ニュージーランドは4学期制。	休み	Term 1			休み	Term 2		休み	Term 3			休み	Term 4			休み
	1月	2月	3月		4月	5月	6月		7月	8月	9月		10月	11月	12月	

ニュージーランドの学年制



※ニュージーランドの高等教育機関は、NZQA（NEW ZEALAND QUALIFICATIONS AUTHORITY）による、10段階レベルの資格があり、その質が保証されています。レベル1～4がCertificates（修了書）5～6がDiplomas（短大同等レベル）、7がBachelor's degree and graduate diplomas（大学レベル（学位））、8がPostgraduate certificates and diplomas,and bachelor's degree with honours degree（大学院レベル）、レベル9がMaster's degree（大学院レベル（修士））、Doctoral degree（博士レベル）となっています。

留学への道のり

高校に留学する場合、異文化体験や国際交流を目的とした（卒業を目的としない）1年間の交換留学と、卒業を目的とした留学（卒業留学）とがある。卒業留学には、高度な英語力が必要だが、学校によっては、海外留学生のための英語能力向上プログラムを用意し、初級レベルの生徒も受け入れている。

日本の高校を卒業してニュージーランドの大学に入学するには、1年間の大学入学準備コースを修了するのが通常だ。大学進学準備コースに入学するために必要な英語力はIELTS 5.5～、TOEFL iBT61～が目安。入学条件に満たない場合は、語学学校で学び英語力を学校の要求水準まで上げる必要がある。

大学進学準備コースでは、進学希望の学部に合わせた科目を履修し、大学での専門課程に向けて準備をする。さらに、論文の書き方、リサーチやプレゼンテーションの方法など、大学の授業についていくためのスキル（アカデミック・スキル）を学ぶ。

living in

NEW ZEALAND

現地在住の日本人に聞く、ニュージーランドの魅力！

@ City of sails（帆の街） Auckland

豊かな自然とビーチに恵まれた ニュージーランド最大の都市

オークランドにはオーストラリア、アメリカ、ヨーロッパ、日本などからの観光客を迎え入れる観光地としての顔と、アジアなどからの移民を受け入れる移民都市の顔があります。そしてもう一つの顔は、留学生の集まる町。留学とその周辺業界は、この国の酪農業、観光業などと並ぶ主要産業の一つです。海外からの留学生の中には、英語や資格・技術の取得を経て、こちらに生活の基盤を移す移住組も年々増え続けています。

実際に移民として暮らしてみてとりわけ感じるのは、家族を中心に自然と共に穏やかに過ごせる環境だということ。そしてそんな環境があるからこそ生まれるニュージーランド人のフェアで穏やかな国民性です。この魅力を伝えるために、またこちらでも日本人が活躍の場を増やせるように、コミュニティを作って活動しています。お気軽にご参加ください（詳しくはP78へ）。

Navigator
山本大輔 さん

30歳目前にニュージーランドに渡航。現地の語学専門学校で勤務した後、ConnectJPNZを立ち上げ、ニュージーランドの留学・就労・移住のサポートを行う。また、より多くの日本人にNZの魅力を知ってもらうために、NZ在住の日本人やNZを愛する人々のネットワークを作り、ビジネスをつないだり、情報発信をしている。

住んでみた オークランド！

大都会でありながら自然も豊か

ニュージーランド北島北部に位置するニュージーランド最大の都市。空の玄関口であり、国内各所へのアクセスの拠点でもある。都会でありながら、豊かな自然に恵まれ、トレッキングやマリンスポーツなどさまざまなアクティビティが楽しめる。ヨットやボートを所有する人が多く、帆の街（City of Sails）との愛称がある。

❶ 現地在住の日本人に聞いたオークランドのイメージで最も多かった意見は、都市と自然の融合。最大都市でありながら市の中心地から10分で緑豊かなフィールドが広がります。
❷❸ 南半球で一番高いタワーのスカイタワーは、イベントごとにそのライティングが変わるオークランドのアイコンであると同時に道に迷った人の道標になることも。夜景も美しい。
❹ 2040年までに250万人都市を目指すオークランドは移民の街。様々な国からの移民を受け入れています。そのため、出会ったこともないような料理に出会えます。
❺ 海辺にはヨットやボートなどが浮かんでいます。小型船舶を所有する市民の人口比率が世界一と言われるオークランド。帆の街と呼ばれる所以。

❻ 一日に四季があると言われるオークランド。特に冬の時期は晴天からのシャワーが多く虹を見る機会が度々あります。ニュージーランドは「に・じーランド」と言う人もいるんだとか（笑）
❼ 湾に囲まれているオークランドはとにかく海へのアクセスが簡単で生活にも密着しています。週末にもなると海岸沿いを歩く・走る人たちであふれます。ランギトト島を背景に。
❽ オークランドでは大人と子どもが一緒に過ごすコミュニティーが地域に根付いています。子どものうちからこのような環境で過ごせるオークランドが世界一フレンドリーな町に選ばれたのも納得いきます。
❾ 街中の公園で普通に野生の動物に出会えるのもオークランドの魅力。春には雛鳥たちを育てる親鳥をあちこちで見かけます。海辺でお昼寝中のアザラシくんに出会うことも。NZは、化粧品開発に一切動物実験を行わないと決めた国でもあります。

FB上のコミュニティグループはこちら→ ニュージーランドでつながるConnect JPNZ（P78参照）

Windy city（風の街）
@Wellington

❶ ウェリントン郊外はワインの産地 Martinborough（マーティンボロ）やニュージーランド固有の野鳥と触れあえる島 Kapiti Island（カピティ島）など見どころ満載です。休みの日に少し遠出をしてみるのも良いですね。
❷ 博物館や美術館は特別展示を除いて全て無料で楽しむことができます。ニュージーランドの歴史や先住民マオリ族の文化、国の成り立ちなどを楽しみながら学ぶことができます。
❸ パブやバー、飲食店が立ち並んでいるCourtenay Placeは夜遅くまで活気で溢れています。ウェリントンは地ビールづくりが非常に盛んで、地ビールの首都とも呼ばれています。

赤いケーブルカーがトレードマーク

北島の南端にある、ニュージーランドの首都。国会議事堂や大企業のビル、博物館、美術館、劇場などが集まる政治・経済・文化の中心地。クック海峡からの強い海風にちなみ風の街（Windy Wellington）とも呼ばれる。ダウンタウンと丘の上の住宅地を結ぶ真っ赤なケーブルカーはウェリントンの名物。街のあちこちにおしゃれなカフェがあり、コーヒーの街としても知られている。

❹ ウェリントンでは、週末になると各地でマーケットが開かれます。新鮮な旬の野菜や果物をスーパーマーケットより安く買うことができるので地元の人たちに人気です。
❺ CNNで「カフェの街」と称されたウェリントンは質の高い多種多様なカフェがたくさんあります。学校の友だちとワイワイ、また1人でまったりカフェも素敵ですね。

政治・経済・文化の中心地
カフェ巡りも楽しい

住んでみたウェリントン！

ニュージーランドは親切で穏やかな人が多く、治安も良く、気候も日本と同じで四季があり、日本人には本当に住みやすいところです。

その中でも特にウェリントンを気に入っている理由はニュージーランドの歴史や文化、大自然や街の生活などすべてがコンパクトにギュッと凝縮されているからです。街の中心地は徒歩で見て回れるほどの広さ。その中に博物館や美術館、国会議事堂といったものから、生活に必要なスーパーマーケットまで全て揃っています。

さらにニュージーランドの大自然を満喫できる海や山が車で10分、自転車でも30分圏内にあります。特に留学やワーキングホリデーなどある程度限られた期間の滞在をする人にとって、このコンパクトさはすごく住みやすいはずです。

Navigator
長田雅史 さん

29歳まで日本のIT企業で働いたのち、ワーキングホリデーでニュージーランドに。語学学校で学び、カナダでもワーキングホリデーを経験して一時帰国するが、ホテルの求人を見つけ、再びNZへ。ここでパートナーと出合い、結婚。永住権も得てNZ在住歴10年。ウェブマガジン「日刊ニュージーライフ（http://nzlife.net）」を配信中。

田舎のゆったりした雰囲気と都会の便利さを兼ね備えた住みやすい街

The garden city（庭園の街）
@Christchurch

住んでみた クライストチャーチ！

クライストチャーチは、田舎のゆったりとした雰囲気と都市部の便利さを兼ね備えた、とても生活しやすい街です。中心地にきれいなエイボン川が流れ、ハグレーパークをはじめ、公園も多く緑が豊かなところも気に入っています。週末はマーケットに行ったり、羊のいる丘やハグレーパークなどを散歩したり、お洒落なカフェに行ったりと、ニュージーランドならではの生活を楽しんでいます。テカポ湖やマウントクックなど人気の観光地にも比較的近いので、気軽に小旅行に行けるのも良いところですね。

私もクライストチャーチの語学学校に通い、生活をして街がとても好きになったのですが、中学、高校留学、語学留学など、落ち着いた環境で勉強するなら、とても良い環境ですよ。そんなニュージーランドでの生活の魅力を、ブログ「クライストチャーチ最高！」（jdunz.com/newzealand/）で毎日発信しています。ぜひ見てくださいね！

❶ 南島最大の都市だけあって、カフェが充実！コーヒーはもちろん、レジの横のキャビネットフードも美味しい。
❷ 工場だった建物を改装して、こんなオシャレなモールになりました！
❸ ニューブライトンビーチで凧揚げイベント。大道芸人のお祭り、花火大会、野外コンサート会場で夜のピクニックなど、クライストチャーチにはイベントがいっぱい。
❹ ゴンドラで丘に上るとバンクス半島とリトルトン港が、反対側にはクライストチャーチ市街地、その向こうにカンタベリー平野からサザンアルプスまで見渡せる大パノラマが。

南島の玄関口。美しい街並みと庭園が魅力

南島最大の人口を擁するニュージーランド第3の都市。エイボン川を中心に整備された美しい街並みと、緑豊かな庭園や公園が点在することから、庭園の街（The garden city）と呼ばれる。2011年の大地震から復興を遂げ、新たな観光スポットも生まれている。

❺ 地震で倒壊した大聖堂が再建するまでの仮設大聖堂として建てられたカードボード・カセドラル。日本人建築家の坂茂氏の設計で、防水加工された紙でできています。
❻ ニュージーランド人はラグビーが大好き！ナショナルチームのオールブラックスは、常に世界ランキングの上位。スタジアムで観る世界最高峰のラグビーは格別！
❼ ニュージーランドで桜を見るならここハグレーパークの桜並木。毎年９月に満開になります。
❽ 緑を楽しむなら、クライストチャーチ植物園とハグレーパーク（写真）の散策がオススメ。植物園を流れるエイボン川では、カヤックやパンティング（パント船に乗ること）も楽しめます。

Navigator
畫間尚子 さん

大学を休学してクライストチャーチへ。一次帰国後、NZの地元ラジオ局でプロデューサーの職を得て移住。3年後に永住権を取得。現在は、NZで留学サポート会社クオリティーニュージーランドを運営。親子留学、中高校生の単身留学から語学留学まで幅広くサポートする傍ら、執筆活動をしている。各種メディアへの出演多数。

歴史的建造物と野生動物に出会える

1860年代にゴールドラッシュが起こり、金を求めて、スコットランドを中心に世界各国からの移民がダニーデンを訪れた。今でも残るスコットランド風の建物群が、かつての繁栄をしのばせている。近郊のオタゴ半島は野生生物の宝庫。ペンギンやオットセイに出会いたいならエコツアーがおススメ。美しい海岸や手つかずの原生林も楽しもう。

❶ダニーデンには19世紀から20世紀初めに建てられた歴史的な建物が多く残っています。フランダース・ルネッサンス様式の、レンガの装飾が印象的な建物は、ダニーデン駅。内部の装飾も素晴らしい。
❷ゴシック様式の建物は、ニュージーランド最古の大学、オタゴ大学。時計塔は街のシンボルともなっています。
❸街の中心のオクタゴンと呼ばれる広場に立つネオ・ゴシック様式のセント・ポール大聖堂。
❹1902年に建てられた、ゴシック様式のダニーデン裁判所。

@ City of college（学園都市） Dunedin

住んでみたダニーデン！

ダニーデンは、街の端から端まで車で20分もあれば行くことができ、その範囲内に様々なスポーツ施設や博物館、アートギャラリーなどが充実しています。ほんの少し足を延ばすだけで豊かな自然を楽しむこともできます。オタゴ半島ではロイヤルアルバトロスやペンギン、オットセイなどの野生動物に出会えるエコツアーも盛んです。

ダニーデンは、国内最古のオタゴ大学を中心とする学生の街としても知られています。人口の約15％を学生が占めており、学生たちが帰郷してしまうクリスマスホリデー中は、普段と比べると街がとても静かになります。大きすぎず、小さすぎず便利で安全な街で、子どもを育てるには最適です。もちろん留学生にも人気があり、様々な国から来た学生が高校や大学で学んでいます。都会が好きな人には少し物足りないかもしれませんが、遊びの誘惑が少ないので勉強するにはとてもよい環境です。

Navigator
木村淳子 さん

いくつかのホテルで働いたあと、ステップアップのために語学留学を思い立ちNZへ。その後ポリテクニックへ進学しホテル経営学を学ぶ。在学中に夫と出会い結婚。1年だけの留学予定だったが、気付けばNZでの滞在は20年近くになろうとしている。現在はICC国際交流委員会の現地アドバイザーとして高校生のサポートをしている。

ペンギンやオットセイにも会える コンパクトで住みやすい街

❺ニュージーランドでもダニーデンから南にかけてしか見ることのないチーズロール。大抵どこのカフェでも注文することができます。上にたっぷりとマーガリンを塗って食べるのがキウイ流です。
❻ 1932年にオープンしてから殆ど変わっていないベストカフェ。ダニーデンで一番古いフィッシュアンドチップスのお店で、新鮮なオイスターやさくさくしたフィッシュアンドチップスが人気です。
❼❽❾❿ダニーデンの街を歩いているとしばしば、壁いっぱいに描かれたウォールアートに出会うことができます。❼はニュージーランド、❽はイタリア、❾❿はイギリスのアーティストによるもの。